

マダコ種苗の生産技術開発の概要

1 種苗生産技術開発に取り組む経緯

- (1) マダコは兵庫県の瀬戸内海では古くから漁獲量が多く、夏を代表とする水産物として有名であるが、貧栄養化の影響などから漁獲量の減少が続いており、資源増大の対策が求められている。
- (2) マダコの種苗生産は、1960年代に本県が日本で初めて種苗生産に成功したものの、浮遊後期の大型餌料の大量確保の課題が解決できず量産化に至らなかった。
- (3) 近年の国立研究開発法人水産研究・教育機構や岡山県の研究で、水流装置の開発や初期餌料へのガザミの幼生（ゾエア）の利用などで生残率が向上するなど、放流の目安となる「着底稚ダコ」の量産に繋がる新たな知見が得られた。
- (4) そこで県では、ガザミの放流種苗を生産している（公財）ひょうご豊かな海づくり協会と連携し、令和5年度からマダコ種苗の生産技術開発に取り組み、本格的な種苗放流の実施を目指している。

2 これまでの成果等

(1) 令和5年度（1年目）の成果

- ア 6月末に岡山県水産研究所から孵化幼生 5,000 匹の提供を受け、飼育開始。
- イ 7月末に着底稚ダコを取り上げ、約 2,300 匹の飼育に成功。しかしその後、予見していた共食いにより日齢 55 日目には 320 匹となり、1 回目の試験を終了。
- ウ 2 回目の試験で、8 月中旬に孵化幼生約 50,000 個体を収容したが日齢 7 日程度で大量斃死。原因は不明だが、高水温(27-29℃)の影響と推測。
- エ 3 回目の試験で、10 月から 11 月にかけて孵化幼生計 2,000 個体を収容。秋に確保できないガザミ幼生に代わる餌料の探索を試みたが、有効な代替餌料を見つけれず、着底稚ダコの生産に至らなかった。

(2) 令和6年度（2年目）の成果

- ア 6月末に県内産親ダコの卵から孵化幼生 17,000 匹を収容し、飼育開始。
- イ 7月末に着底稚ダコを取り上げし、約 12,000 匹の生残を確認。
- ウ 8月5日に約 2,500 匹を明石市江井島海岸に放流。

(3) 令和7年度（3年目）の進捗

- ア 6月末から7月上旬にかけて県内産親ダコの卵から孵化幼生 97,000 匹を収容し、飼育開始。

3 今後の課題

(1) 種苗生産の効率化と代替餌料の探索

大型水槽を用いた飼育や飼育装置の改良、ガザミ幼生に代わる餌料の探索など、量産技術の開発に取り組む。

(2) 放流適地の検討

稚ダコの分布場所や生育環境等を調査し、放流に適した場所や条件等を検討する。

(3) 放流方法の試験

ノリ網等に付着させて放流するなど、放流後の生産率を高める効果的な放流方法を開発する。

【参考】

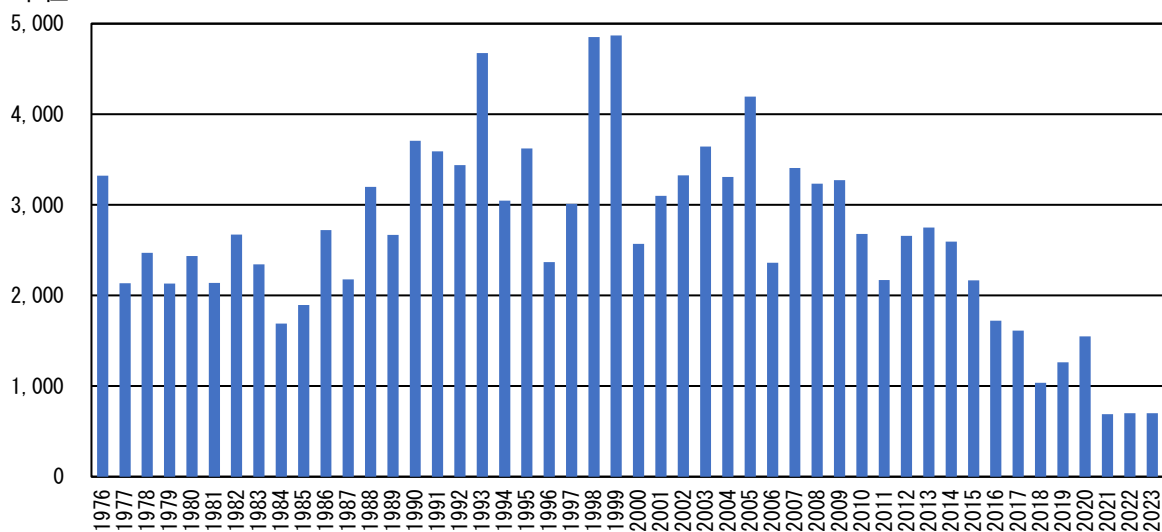
1 生産技術開発のスケジュール

指標名	R5	R6	R7	R8	R9	最終目標
着底稚ダコ※ 生産数	1 千匹	5 千匹	25 千匹	—		25 千匹 【R7 年度】
マダコ種苗 放流数	—		10 千匹	20 千匹	100 千匹	100 千匹 【R9 年度】

※浮遊生活を終えた約 30 日齢の稚ダコ

2 本県瀬戸内海海域におけるタコ類の漁獲量

単位：t



出典：農林水産省 海面漁業生産統計調査

3 マダコの成長過程



卵を管理する親ダコ



浮遊生活を送る幼生



着底直後の稚ダコ



孵化 68 日目の稚ダコ

4 明石市地先における資源管理等の取組

産卵用タコつぼの投入や抱卵ダコの再放流といった資源保護、海底耕うんや有機肥料を用いた栄養塩供給といった生息環境改善の取組を実施。

また、遊漁によるタコの採捕も漁獲量の減少要因とも考えられることから、「明石市沿岸のタコ釣りルール」を設けるなど、遊漁者とも調整を図りながら管理に取り組んでいる。

【明石市沿岸のタコ釣りルール】

[https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-](https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6.pdf)

[content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6. pdf](https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6.pdf)